

バセドー病と橋本病、詳しく教えて

甲状腺に関わる疾患のバセドー病と橋本病。ともに女性の患者が多く、症状があっても「気のせい」と見過ごし、発症に気付かないケースも多いという。四国こどもとおとなの医療センター(善通寺市)の吉田守美子臨床研究部長に治療法などについて聞いた。

自己免疫疾患の一つ

■バセドー病とは。発症の男女比は1対5〜6程度で、20〜40代の女性に多い。中高年で罹患するケースもある。何らかの原因で甲状腺を刺激する自己抗体(自分自身の体を攻撃する抗体)ができ、甲状腺ホルモンが過剰に作られることにより、動悸や体重減少、手指の震え、汗をかきやすくなる、などの症状が現れ、甲状腺が腫れる。

■どう治療する。薬物治療、放射性ヨウ素内用療法(アイソトープ療法)、手術の三つがある。多くの場合に第一選択となる薬物療法では抗甲状腺薬を内服する。アイソトープ療法は実施できる施設が限られており、小児や妊婦、授乳中の人は受けられない。手術では甲状腺を摘出するため、早く確実に効果を得られる一方、合併症のリスクがあり、術後に甲状腺ホルモン剤を服用する必要がある。

■橋本病は慢性甲状腺炎とも呼ばれる。自己免疫の異常によって甲状腺に慢性的に炎症が生じる疾患で、甲状腺の腫れを指摘されて診断されることある。男性の20倍と特に女性に多い。炎症が進行すると甲状腺ホルモンが作られなくなると甲状腺機能低下症になることもあり、全身のむくみや体重増加、便秘、寒く感じやすいなどの症状が出る。橋本病の全ての人々が甲状腺機能低下症になるわけではない。甲状腺機能が正常であれば基本的に治療する必要はなく、甲状腺機能低下症の場合は甲状腺ホルモン剤の内服を行う。

バセドー病と橋本病の治療法

バセドー病	薬物療法 放射性ヨウ素内用療法(アイソトープ療法) 手術(甲状腺摘出術)	基本的に治療は必要なし
橋本病	甲状腺機能が正常 甲状腺機能低下症なら	甲状腺ホルモン剤内服

■バセドー病と橋本病は妊娠、出産に影響はない? バセドー病や橋本病がありながら妊娠を考える場合は、妊娠前から甲状腺ホルモン値を正常にしておくことが大切。甲状腺ホルモン値が高いまま、あるいは低いまままで妊娠すると流産・早産のリスクが高くなる。橋本病は不妊治療や妊娠を機

に初めて診断されることも多く、症状が現れない程度の軽い甲状腺ホルモン不足であっても、妊娠中あるいは妊娠を希望する女性には甲状腺ホルモンの補充を行う場合がある。病気に関する情報は日々更新される上、最近情報はネットなどで間違った情報に触れるリスクが高まっているため、妊娠前に主治医や専門医に相談するのがよい。

■気を付けることはある? ともに遺伝的な要因に妊娠・出産、ストレスなどの要因が加わって発症すると考えられている。女性は甲状腺疾患の頻度が比較的高く、当てはまる症状があれば一度、甲状腺機能検査を受けるとよい。治療中の人は、定期的な通院を欠かさず、内服が途切れないようにしてほしい。

甲状腺ホルモン値を正常に

今日のドクターは...

吉田 守美子 先生

四国こどもとおとなの医療センター
臨床研究部長



よしだ・すみこ 2001年徳島大医学部卒。ポスドン大医学部、徳島大大学院准教授などを経て22年9月から現職。日本甲状腺学会専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医・指導医。

